

# 春号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
TEL 924-2194 FAX 924-2195

## 【みどりの教室】・・・参加費無料

日時：平成30年4月15日(日) 10:00~12:00

場所：とんがりふれあい館ホール

定員：20名

内容：樹木観察会、  
ハナカツミの講習会  
(樹木観察後にハナカツミ講習)



日時：平成30年6月17日(日) 10:00~12:00

場所：郡山カルチャーパーク工作室

定員：20名

内容：季節の花の寄せ植え

## 【みどり講習会】

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

①日時：平成30年4月22日(日) 10:00~12:00

内容：常緑針葉樹、広葉樹の剪定管理

②日時：平成30年5月27日(日) 10:00~12:00

内容：春咲き樹木の花後の管理

③平成30年6月24日(日) 10:00~12:00

内容：病害虫の防除

\*受講料無料ですので、お気軽にお越しください。

## My ガーデニング・・・季節のワンポイントアドバイス

### 【水やり】

これからの季節は植物が芽を伸ばし、葉を開くために水分を多く必要とします。その為に、植え替えて間もないまたは鉢植えの場合は、特に水やりが必要です。水切れになると枯れるリスクが高まります。そうならないように、樹冠全体根元に水をかけて乾燥から守ります。腐葉土などでマルチング(表面を被う事)をすると根元の乾燥防止になり、雑草の発生も抑えられます。

### 【植替え】

落葉樹は、芽が動き始めたので植え替えるには遅すぎます。秋まで待つのがベストです。針葉樹は、芽が伸び始める頃が適期となりますので早めに済ませます。常緑広葉樹は、葉が広がるまでが適期です。大木の移植も可能です。しかし、葉が広がり柔らかな時期は枯れるリスクが高いため、芽が固まる梅雨頃まで待ちます。

多くの樹木に共通している良い土壌は、赤玉土6~7割、腐葉土3~7割が基本用土です。黒土が、一番良いと考えるのは改めた方がいいでしょう。土壌は透水性、通気性、保水性、保肥力などが大切です。市内で多く利用されている山砂は、決して良好な土壌ではありません。

### 【肥料】

3月までに寒肥を与えていない場合は、今すぐにあげます。骨粉入りの発酵済み油粕などの緩効性有機質肥料をあげるとゆっくり長く効果があるので、樹木には一番適しています。春先の芽の伸びが違います。できれば、穴を掘って腐葉土や炭なども混ぜて肥料を埋めてあげると土壌改良にもなり有効に根に届きます。油粕は、肥料成分が低いため仮に多く与えても肥料焼けの心配が少ないですね。ツツジなどの開花後、お礼肥としてあげるとその後の成長に違いが出て、花芽の付きも良くなります。

**（肥料成分）**

肥料の三要素って!? 何だろう(?\_?)  
窒素 (N)、リン酸 (P)、カリ (K) が育つための主要な肥料成分なのでその様にいわれます。肥料の袋などにはその順番で含まれている量がパーセントとして数字で表されています。ただそれだけがあれば済む訳ではなく、そのほかの微量要素が必要になります。肥料は多すぎても少なすぎても障害がでます。その植物や土壌状態、季節などに応じた肥料が必要です。庭木には成分量の少ない物を使用した方が無難です。

**【病害虫】****（アブラムシ類）**

この時期のカエデ類や果樹などの多くの植物の新芽にはびっしりと付いているのを多く見かけます。そうすると葉が縮れたり変色したりして芽の成長が止まってしまいます。そしてウイルス病を媒介したり排泄物にアリがよって来たりスス病が発生したりする厄介な害虫です。芽が柔らかい時期は薬剤散布によって害が発生する場合があります。

**（カイガラムシ類）**

カイガラムシといっても多くの種類が存在し外観も大きく違います。ただ防除が厄介な害虫です。幹や枝葉に着生して吸汁して弱らせてしまいます。またアブラムシと同じくスス病が発生します。

**（その他の害虫）**

春先に伸びだした **マサキ** にはユウマダラエダシャクが、**ツゲ類** にはツゲノメイガが発生して柔らかい葉をすべて食害してしまう事が多くあります。近頃多く見られるのは **サンゴジュ** の葉が穴を開けながら食害されている姿です。サンゴジュハムシの仕業です。**針葉樹** につく越冬したマツカレハもこれから旺盛に食害し育っていきます。またマツノザイセンチュウによるマツ枯れも目立ちます。枯れたマツは、早めに処分をして次の発生を防ぎます。カミキリムシ類も退治しにくい害虫です。**果樹類やカエデ類** に多く発生し枯らしてしまう被害がみられます。

**（防除方法）**

日頃から観察して発生初期に退治する事が一番です。薬剤の場合は、使用方法を守る事が大切です。一般的に殺虫剤は、予防効果があるものが少ないのが現状です。

**（うどんこ病・黒星病）**

うどんこ病は、5 月頃から多くの植物に発生します。また、バラは黒星病が毎年発生しやすいので、もし発病していたら早めに対処してください。



(カイガラムシ)

～落ち葉や病気の発生した枝葉は、綺麗に掃き集め処分することが、次の病気の発生を防ぎます。病気は予防が第一です。発生しやすい時期が近付いたら、早めの薬剤散布などが大切です。ただ薬剤散布に頼りたくない場合はその植物を丈夫に育てる事です。そうすれば抵抗力があり発生を少なくする事が可能と思われます。

**【剪定】**

常緑広葉樹の剪定は、これからが適期となります。ただし切る位置によってその後の伸びが変わってきますので弱い芽の所では剪定をしないように。サザンカやツバキは花後すぐにキンモクセイも早めに剪定をする事によって次の花芽が出来ていきます。これから咲き出すツツジ類やシャクナゲなどは花柄を摘むことによって樹勢が弱らず枝の伸長がはかれます。

落葉樹は、これからは弱めの剪定に留めます。徒長枝や弱った枝を整理しておくだけの方が無難ですね。ただし夏に咲くサルスベリなどは、春先から伸びた強い枝に花がつくので弱い枝は切り、強い枝を切り詰めて残します。早めに行ってください。

針葉樹の刈込剪定は適期となります。キャラボクやヒバ類はこの時期は強めな剪定が可能です。マツ類は 4 月後半から樹形を整えるためにみどり摘みを行います。